

令和2年度第1回
台東区総合教育会議
(令和2年11月17日)

台東区総務課

○日 時 令和2年11月17日(火) 午後15時30分から午後16時29分

○場 所 庁議室

○構 成 員

区	長	服部	征夫
教 育	長	矢下	薫
教育長職務代理者		末廣	照純
教 育 委 員		神田	しげみ
教 育 委 員		高森	大乘
教 育 委 員		垣内	恵美子

○関 係 職 員

総 務 部 長	野村	武治
教育委員会事務局次長	酒井	まり
総 務 課 長	前田	幹生
庶 務 課 長	佐々木	洋人
指 導 課 長	瀧田	健二
教育改革担当課長 兼 教育支援館長	倉島	敬和

○日 程

- 1 区長挨拶
- 2 教育長挨拶
- 3 議 題

(1) 小中学校におけるICT教育の推進について

<配布物>

- ・ 小中学校におけるICT教育の推進

午後15時30分 開会

○前田総務課長 これより、令和2年第1回台東区総合教育会議を開会させていただきます。

私は事務局を務めます、総務課長の前田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
着座のまま進めさせていただきます。

会議に入ります前に、傍聴についてお諮りいたします。この総合教育会議は、原則として公開することになっておりますので、本日提出される傍聴願につきましては、許可いたしたいと存じますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○前田総務課長 ありがとうございます。ご異議ございませんので、傍聴については許可いたしたいと存じます。なお、今のところ、傍聴願はございません。

また、議事録作成のため、録音させていただきますので、あらかじめご了承くださいと存じます。

本日は新型コロナウイルス感染症予防のため、適宜室内の換気をさせていただきます。寒い等ございましたら、事務局までお申しつけいただければと存じます。

それでは、開会にあたりまして、服部区長よりご挨拶をお願いいたします。

○服部区長 本日は、ご多用のところお集まり頂きまして誠にありがとうございます。

今年は新型コロナウイルス感染症が世界各地で広まり、本区においても区民生活に大きな影響を与えています。また、教育現場においても、一時は休校の対応を行うなど、児童や生徒、またその保護者にとって不安があったと思います。そうした中で教育委員会をはじめ、関係の皆様のご尽力によりまして学校が再開され、子供たちの活気が戻ってまいりましたことは、大変喜ばしく、心から感謝を申し上げます。

また新型コロナウイルスの第3波が大変危惧される中、拡大の防止と、インフルエンザの流行期に備えて今後の対応をよろしくお願いいたします。

本日の議題は、「小中学校におけるICT教育の推進について」といたしました。新しい生活様式が求められる中、教育における情報通信技術の活用は、子供たちに学びの機会を保障し、新たな可能性を広げる重要なテーマです。限られた時間ですが、皆様から貴重なご意見をお寄せいただきますよう、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○前田総務課長 ありがとうございます。

続きまして、矢下教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○矢下教育長 私のほうからも挨拶申し上げます。

先ほど服部区長からお話があったとおり、今年は突然の臨時休校となり、私ども教育委員を含めて、日々大変な思いをしながら、対応をまいりました。その後、もう一回臨時休校を経て学校が再開をして今に至るわけですが、今年は大変な年でありましたので、本当に多くの方にご支援とお力添えをいただいて、何とか今まで乗り切ってきたというのが正直な感想でございます。ただ、その正直な感想を申し上げるには、本当にたくさんの方にご支援をいただいたからでありまして、私どもも感謝をしております。

本日の議題の「小中学校におけるICT教育の推進について」でございませけれども、後ほど説明いたしますGIGAスクール構想に基づいて、新しいICT環境を今の子どもたちに経験してもらって、子どもたちの資質・能力を更に育成をしていこうというものでございます。友達や先生との交流や、自らの考えを整理し表現することなど、子どもたちの力を伸ばすICT教育の可能性について、ご報告をさせていただければと思いますので、どうぞ本日はよろしく願いいたします。

○前田総務課長 ありがとうございます。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。議題は、次第にございませとおりに「小中学校におけるICT教育の推進について」でございませ。教育改革担当課長からの説明の後、委員の皆様よりご意見等を頂戴できればと存じます。

それでは、倉島課長、よろしく願いいたします。

○倉島教育改革担当課長 それでは、よろしく願いいたします。着座にて説明させていただきます。

まず、お手元にもパワーポイントの資料がございませますが、基本的には画面を見ていただければと存じます。

1ページ目、冒頭になりますが、新型コロナウイルス感染症の脅威というのは、教育界においても「予測困難」な出来事でした。もともと「台東区学校教育ビジョン」の中でも「予測困難な時代」というものを想定していたのですが、まさかこんなに早くそんな時代が来るとはおもいませんでした。学校教育におきまして、これまでに経験したことのない新たな課題に各学校が立ち向かい、現在もその解決に向けて取り組んでいるところであります。

さて、国連の「持続可能な開発目標」いわゆるSDGsの達成目標年である2030年まで、あと10年となりました。その目標の一つである「質の高い教育をみんなに」の達成に向けて、教育行政として全力で取り組んでまいりたいと考えております。

では次、2枚目のページになります。本日は、先ほどもご案内のあったとおり、台東区教育委員会が取り組んでおります「小中学校におけるICT教育の推進」について、「1人1台端末環境を活用した情報活用能力の育成に向けて」と題し、ご報告を申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

では、続きまして、ページ3枚目、どのような形で説明をするかという骨子でございませ。本日は、本区におけるこれまでのICT教育の実践とともに、今年度整備いたします1人1台端末環境の構築とその活用についてご説明いたします。なお、本日私たち事務局が使用しております端末は、このプレゼンで映しているものもそうですが、実は今年度各学校に配備しております子どもたちや先生方が使っている学習用タブレットパソコンの実物でございませ。後ほどこの端末の活用例についても、ご報告をしたいと思います。

ではまず第1章でございませ。モデル校における実践ということで、本区がこれまでICT教育をどのように進めてきたかということをご説明したいと思います。スライドの

写真にあるものは、昨年度モデル校であった浅草小学校の第2学年の授業の様子です。タブレットパソコンを使いながら、栽培中のミニトマトを撮影し、観察記録を作成するという活動でございます。

ページが変わりまして、本区がどのようにICTを推進してきたかのおよその流れでございます。平成13年度のパソコン室の開設に始まって、ICT環境の整備が順次進んでまいりました。平成26年度は、先生たちが使うタブレットパソコンと、デジタル教科書の整備を始めました。そして、平成29年度からは児童・生徒用のタブレットパソコンを整備するため、モデル実施を進めてきたということでございます。

次のページでございます。平成30年度及び令和元年度においては、今申したとおり、浅草小学校・蔵前小学校、中学校では駒形中学校の3校をICTのモデル校に指定し、児童・生徒用タブレットパソコンの活用に関する実践研究を行うとともに、その研究成果に関する報告会を全校の先生方すべてを対象に実施したところです。

次のシートになります。7枚目でございます。実際のモデル校での実践研究にあたっては、例えばICT支援員の配置による授業の支援や、教員、児童・生徒、保護者へのアンケート調査、また授業の方法についてまとめた実践事例集を作成しました。そのような事を取り組みながら、ICTの日常的な活用について研究を進めてきたところでございます。

このモデル校の研究によって、児童・生徒の話し合いを円滑に行う技術の向上や、自分の考えを相手に理解してもらえるように表現しようとする態度の醸成など、ICTの活用によって育まれた資質・能力が明らかとなってまいりました。これらの力は、情報活用能力の一端でございます。これから予測困難な時代を生きる子どもたちにとって必要な力でございます。この考え方は、現行の学習指導要領にも明記されているものでございます。

8ページ目になります。さらに、モデル校での実践について、写真を基にご説明を申し上げます。この写真は駒形中学校における朝学習の様子でございます。ドリル学習ソフトを使って、自分のペースで一問一問解いていくうちに、自然と学習に集中する、そのような姿勢が培われてまいります。

次ページでございますが、こちらは浅草小学校の様子でございます。第4学年、特別の教科である道徳の様子でございますが、自分の考えをまず子どもたちがタブレットパソコンにそれぞれ書きます。スライドの左側の大きい電子黒板に1人1人の考え方が転送されて、学びを深める材料になります。今は、画面は写真ですから動きませんが、先生方が特に考えさせたい子供のシートをピッと押すことで画面が大きくなり「だれだれ君、この考えをもっと具体的に説明してくれないか」のような協働学習を進めながら、学び合い、学習を深めていく。そんなような実践をしておりました。

次、シート10枚目になります。こちらは蔵前小学校の5年生の理科の実験の様子です。振り子の揺れる周期をストップウォッチで測っております。子どもたちは計測結果をタブレットパソコンに入力していきます。入力した数値は、学級全体として集計されます。子どもたちはその結果を共有し、話し合っております。各グループの子どもたちが振り子を

振って数値を記録して、それを全体で共有することで、傾向や一般化が見えてきます。振り子の長さ・重さがどういう関係にあると振り子が振れるのかということを実験し、クラスで共有することで、科学的なものの見方というところを整理する、そのような授業をこのICT機器を使いながら探究してまいりました。

次のページになります。ここからは、いわゆる今年度取り組んでおります1人1台端末環境の構築というところで説明を進めてまいりたいと思います。このページの写真は、昨年のモデル校の蔵前小学校の1年生の授業の様子です。小学校1年生、6歳の子どもたちがタブレットパソコンを使って、「ぜひ学校に来てください」といういわゆる学校公開の招待状を、タブレットの画面に指でなぞりながら絵を描いたり言葉を書いたりしながら、お父様・お母様方やお家の方々に作成しているという活動でございます。

次のページになります。こちらは、昨年度教育改革担当のほうで作成をさせていただきました「台東区学校教育ビジョン」及び、昨年の12月暮れに国が「GIGAスクール構想」というものを示しました教育環境の整備と活用のあり方に基づいて、私たちは今ICTの教育環境整備を進めているという図でございます。このシートで分かるとおり、当初予算では3学級に1学級分の全校展開をしていくというところではございましたが、コロナ禍の社会的情勢の変化によって、国がGIGAスクール構想の加速化をいたしました。いかなる環境下においても学校教育の機能を果たすため、台東区においても「児童・生徒用端末の1人1台整備」を標準化していくため現在1人1台環境の整備を加速化しながら進めているところでございます。

この整備にあたっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、仮に学校が臨時休業というような場面に直面した際にも対応できるよう、より幅広く柔軟にICT機器が活用できるような1人1台端末の整備を目指し、現在スケジュールを前倒して令和2年度中に整備しようとしているところでございます。

次ページに移りましてこちらの図は、難しい図になってしまうので簡単にご説明しますが、1人1台端末で使用する新しい端末は、区内の児童・生徒、そして先生方、合わせておよそ1万台を超えるような数を全て運用していかなければなりません。そのために1万台の端末を効率よく快適に動作させるために、インターネットに安定して接続できる環境も併せて整備することになりました。また、授業などで活用する様々な電子データは目の前のパソコンに保存するのではなく、インターネット上の部外者が入ってこられないような安全な場所に格納するなど、情報の保護などの安全面について十分に配慮したネットワーク環境というものを今作っているところでございます。

次に、こちらが1人1台端末の活用のあり方についてになります。大きくオレンジ色の「学校では」、そして黄緑の「家庭では」というところで分けて示しております。

学校では情報の収集・整理・発信や資料作成をはじめ、プログラミング教育、情報モラル教育など、これまでの学校教育においても実施している内容を1人1台端末によって充実させてまいります。また、家庭では、1人1台端末を持ち帰るといった新たな取組によって、

ドリル学習ソフトの活用や宿題のICT化を進めます。さらに、学校・家庭間の通信環境を確保することで、臨時休校等の事態になった場合でも学習活動も家庭と学校がつながって進めることができるようになります。

第3章の15ページ目、ICT教育環境を活用した情報活用能力の育成についてご説明いたします。ご覧の写真は、昨年度の駒形中学校1年生の国語の授業の様子です。タブレットパソコンの画面を通して、数人のグループで話し合いを行うというような活動です。

次に、1人1台端末の整備は中学校から始めておりまして、10月末現在で7校全ての中学校に整備が完了いたしました。現在、小学校について順次整備を進めているところでございます。整備をすることだけが目的ではございませんので、整備をした後、すぐ先生方にタブレットの使い方や指導の仕方というところの研修も各学校で行っております。ご覧の写真は、10月末に上野中学校で環境が整った際のものですが、早速1年生の生徒たちがタブレットパソコンを使って学習に取り組んでいるところでございます。

配られたばかりの端末ではありますが、使っていくからこそどんどん端末の操作に慣れてくるところでありまして、すぐに生徒達は操作を覚えて、紙と鉛筆と同じような道具としてこの端末を使い始めているという様子でございます。

活動中には、生徒同士の教え合いなどの心温まる場面も自然と生まれておりました。友達とともに学ぶ楽しさを味わう機会をもたらすという部分において、このICT活用は価値の一端でもあると感じました。

学習活動において自らの考えを整理し表現することなど、ICT教育の今後の可能性について、ご説明いたしました。1人1台端末環境の活用によって、児童・生徒の情報活用能力を更に高め、予測困難な時代を生きる児童・生徒の育成に向けて、これからも取り組んでまいりたいと思っております。

今後も、ICT教育環境を活用したあらゆる学びの可能性を追究し、創造性豊かに、たくましく生きる力を身に付けられる教育の推進に努めてまいります。

それではここから、ICT教育環境の活用例として、幾つかご紹介をしたいと思います。

まずはデジタル教科書についてご覧いただければと思います。

こちらが中学校の第2学年の理科のデジタル教科書でございまして、今日ご紹介するのは「電気の世界」というページをご覧いただこうと思います。このデジタル教科書というのは、単に紙の教科書がデジタル化されたものではございません。紙の教科書には無かった学びに役立つ数十秒の動画が様々な場所にございまして、指導者が必要な場面でポンと押すだけで、動画が再生されます。今回は「ドアのノブに手を近づけたときに飛ぶ火花」という静電気の動画を再生してみます。

(動画再生)

○倉島教育改革担当課長 これまで紙の教科書であると、言葉でこの状況を説明するにすぎません。デジタル教科書を使用し、実際に写真や動画を見ることで理解が深まり、知識が定着しやすくなります。デジタル教科書にはこのような動画が各ページにたくさんあり

ますので、先生方は授業の効果的な場面や学習のまとめの場面で動画を使うことができます。また、このデジタル教科書は、ラインを引いたり、マルを付けたり、拡大をするなどの機能がありますので、例えば子どもたちに注目させたいところを赤マルを付けて「ここを見るんだよ」と表示することもできます。

以上がデジタル教科書の簡単なご紹介でございます。

次に、今回の学習端末の売りである学校でも家庭でも使える用途の中に、庁内の中でも今使い始めておりますが、ウェブ会議機能というものがございます。今ご覧いただいている画面の中で、若干小さく映り始めておりますが、私たちが今回導入する端末にはMicrosoftのTeamsが用意されています。今、私が画面に写っておりますが、実際に学校が休校になった際にも子どもたちがこの端末をご家庭に持ち帰って、例えば朝の会をこのウェブ会議ソフトTeamsを使って、先生とお子様コミュニケーションを取ったり、その日の学習を確認したり、または夕方に学習の振り返りをするのに使えます。もちろん動画を視聴するという事もできますし、先生が出した課題をこのインターネットを介して子どもたちが受け取り、端末で宿題を行い、インターネットを介して学校に提出したものを、先生がそれにまた添削をし、コメントを入れることもできます。またはグループ同士で、各々の考え方をみんなで見ながら学びを深めていくことができます。

また、インターネットを介したドリル学習を学校や家庭において行うことができます。このドリル学習ソフトは全教科ございまして、基本的なところから発展的なところまであって、子どもたちが自分のペースで繰り返し学ぶことができます。それが学校や家庭、校外においてもインターネットがつながるような環境があればその場でドリル学習ができます。この子は今ドリルでどこまで学んでいるのかなどその学習の履歴が担任のほうでも把握ができます。

まずはこの端末を全ての学校に早く整備し、先生方にこのウェブ会議システムのみならず、いろいろなアプリケーションを入れておりますので、そういうものが使えるようしながら授業の効果的な場面で使っていくことで、冒頭にご説明したとおり、情報活用能力を育み、予測困難な時代にも対応できるようなSDGsにもつながる質の高い教育を台東区において目指していきたいと思っております。

教育改革担当から、ICT教育の推進についての報告は以上となります。

○前田総務課長 ありがとうございます。

それでは、教育委員の皆様より、ご意見等を頂戴できればと存じますが、いかがでしょうか。

大変僭越ではございますが、ご指名をさせていただきます。垣内委員はいかがでしょうか。

○垣内委員 ご指名でございますので。今のご説明、ありがとうございます。

くしくも、このコロナによって、いろいろな生活様式も変わったわけですが、すべてのことにポジティブな側面とネガティブな側面がありまして、コロナもネガティブな

部分が多かったわけですが、逆にこのオンラインとか、デジタルとか、非接触型のさまざまな活動の重要性というのが非常に強く認識されて、GIGAスクール構想もかつてからずっとあったと思いますが、ぐっと加速したというところは、非常によかったかなと思います。実際、情報インフラがこれからは非常に重要なことになるでしょうし、その情報をどううまくハンドリングして、自分たちの学び、そして将来自分たちの生活に結び付けていくのかということは、本当に今後を生きていく子どもたちにとって不可欠なことだろうと思いますので、ぜひさらにお進めいただきたいと思いますが、ちょっと3点ほどコメントをさせていただこうと思います。

まず1点目は、学校でのこのICT教育をこれまでも進めてこられましたし、多様な形で使われて効果も上がっているのがモデル校の状況かと思いますが、これからは、家庭に持ち帰るタブレットの使い方、要するに、ご家庭で自分たちが主体的に勉強していくツールとしてどううまく使っていくのか。これは結構重要なことではないかというふうに思っております。それぞれの子どもたちによって、主体的に、自ら必要な学びをすくい取っていくことが、このタブレットを通じてより容易にできるようになるということにすごく大きな可能性を感じております。

ただ、台東区の場合、いろいろなご家庭もありますし、これはタブレットだけではなくて、Wi-Fiなどの環境、それからファイアウォールの関係とか、その周辺の通信環境も併せて整備をされないと、そこに差が出てしまうんじゃないかという心配があります。この辺りも大分手当をされるというふうに以前伺いましたけれども、そこも配慮されて、家庭の状況に関わらず、皆さんにそのチャンスがあるように、ぜひお願いしたいというふうに思います。

それから2点目は、今は若い方がみんな、ほぼデジタルネイティブというんですかね。生まれた時にもう既にデジタルの世界があって。小学館の方にお聞きしたのですが、今の小学生は漫画を紙で読まないというふうに聞いております。そういうその生まれたときからずっとデジタルな環境になじんできた方々というのは、多分相当いろいろな、これまでと違う可能性をそのタブレットなり、デジタルの活動なりで展開できるんじゃないかなというふうに思っています。だから子供たちにも期待していますけれども、コンテンツも大事なので、ぜひコンテンツを作っていく、どういう形でこのICTを活用していくかということも学校の中で進めていくときに、やはり若い人達、特にデジタルに関心があって、得意な方々でチームを組まれて、いろいろな、それぞれの学校にふさわしいプログラムを組んでいただくといいかなというようなこともちょっと思っております。

私の大学でも、やはり若いスタッフはもう、ちょっと想像の付かないような使い方をして、非常に効果的・効率的に物事が進んで行くということもございまして、その辺り、ぜひ若い世代で活用していくということも必要かなと思いました。

3点目は、これは文化・芸術、私の専門分野ですが、ここでもよく今言われている事ですが、やはりオンライン、デジタル、非接触型というのは重要なポイントではあるん

ですけど、人とのつながり、人間的なつながりとか、やはり実体験、あるいは同じ時間・空間を共有することによって生まれる空気感というんでしょうか。そういったものは人間生活の中の根源的なものじゃないかというような議論をよくするんですけども、私もオンライン授業をずっとこれまでやっていまして、やはり情報を提供するという意味では、非常に効率的なんですけど、なかなかその反応までを十分汲み取るとか、人間関係、お互いに理解をし合うというところまで十分いかないもどかしさというののちょっと感じておりました、ICTはぜひ進めていただきたいんですけども、同時に実体験、それから人間的なつながり、あるいはその時間・空間の共有といったようなリアルな生活のところもぜひ目配りしていただいて、オンラインのほうがより効果的なものもあればそうでないものもあるので、メリハリをつけてうまくバランスをとりながら進めていただければなというふうに思っております。以上です。

○前田総務課長 垣内委員、ありがとうございます。

続きまして、高森委員、いかがでしょうか。

○高森委員 ご説明ありがとうございます。

もともと、インターネットは、核戦争が起きても通信が取れる手段ということで、米ソ冷戦下に開発された技術でしたが、今年このようなコロナウイルスの感染症拡大により未曾有の困難を人類が経験している中で、それが私たちの生活に非常に大切になって、欠かせないものになってきているというのが現実としてあると思います。

学校現場でも、今年はこの感染症禍の中で、いかなる状況下にあっても学校を止めるなという、そういった動きが、文部科学省を中心に強く進められてきました。そういう意味では、学校機能の補完という意味合いにおいてもインターネットには期待できる場所があると思います。そうした中、GIGAスクール構想の実現の加速化ということもいよいよ本格的に進められているところではないかなと思っております。

今、垣内委員がおっしゃったように、オンライン授業の推進というのが、子供たちの健全な育成に全て寄与できるというのは必ずしも言えないということがあって、リモートではその学校文化特有の学習がなかなか難しい。確かにリモートでやっていたら、学力は取り戻せるかもしれませんが、今、垣内委員がおっしゃった人間性の構築、例えば対話力だとか人間関係の形成力だとか、環境への適応能力というのは、このリモートのスタイルではなかなか育てられない部分があると思います。先ほど発表の中で、ウェブ会議ソフトのTeamsを使ったりだとか、Classroomだとか、Zoomだとか、さまざまな会議ソフトがあるので、そういったものを使っての擬似対面的な授業はできるんですけども、恐らく限界があるのだということは学校の先生方も認識されていると思います。やはり、人対人の対面の中でしか育てられないさまざまな要素もありますので、そういったことも考えながらICTの活用というのをこれから考えていく必要があると思っております。

ICTのようにリモートでできる部分と、リアルな対面の中でしかできない部分と、その両方が教育現場では必要になりますから、遠隔・対面双方のメリハリをつけながら導入し

ていく意味があるのかなと思います。

こういった中で、様々な取り組みがなされ、先生方や現場では様々な知恵を出し合っ
てこのICTの活用をこれから進めていくのしょうけれども、一つ提案があります。これ
から学校の先生方の質という部分では、今までの先生方とは違う質が求められる時代がこ
れから待っているのかなという気がするのです。先生方を育てる部分でもこのICTを活
用して、今まで以上に効果的な授業のありかたを勉強するような機会も必要になってく
ると思います。いずれにしても、今現場で行われている実績を一つずつ記録して、でき
れば良質な授業はアーカイブ化しておいて、ICTを使うとこういう授業ができるよとい
うことを実際に教育委員会なり国のほうでデータベース化したものを教育実習の時に
先生方に学んでいただくとか、そういったこともこれから実現するのかなと。あるいは、
教育実習も現場の様子をリモートで映しながらできるような時代もこれから来るの
かなと。さまざまな可能性が秘められているなという気がいたしました。

いずれにしてもこのsociety5.0社会を生きていく子供たちを育てるためには、様
々な知識、技能、それから体力も必要になってきますので、そういったことの育成に、
このICTが活用できることを期待しております。以上です。

○前田総務課長 高森委員、ありがとうございました。

続きまして、神田委員、いかがでしょうか。

○神田委員 今日はありがとうございました。とてもよく分かりました。私も現場に
いるときから、ずっと計画的に台東区は取り組みを進めてくださって、大変ありがた
かったです。今回コロナもありましたので、前倒しになって一気に進みましたが、こ
の推進力というのはやはりすばらしいなと思います。

学びを止めないということは、やっぱりこの時代大事だと思いますし、この前
読んだ本が、「教育委員会が本気を出したらすごかった」で、熊本市のタブレット導
入の取り組みだったのですが、それを読むと台東区と重なってきました。総合教育
会議の中でもこういった議論をしているということが書かれていて、一緒だと思
いました。成果が上がった理由に、大量の端末を一気に入れたこと、教員用の
端末を1人1台ずつ提供したこと、教員への手厚いサポート、4つ目が、端末の
使い方に制限をかけなかったということが書かれておりました。この中には
いろいろ課題もあると思うのですが、とにかく子どもたちの学びを止めない、
先生たちもそのために頑張ってきたし、教育委員会も頑張っているんだな
というふうに台東区の取組みでも思いました。

学校にオンラインを取り入れることで、副産物として、学校と家庭との相互理解
が深まったということも台東区でも聞いております。それから、教員がICTを
活用することで、授業の質も高まっていったというような事も考えられる
かなと思います。前に教育委員会でもちょっと話題にもなったのですが、
不登校の子どもたちが、少し意識が変わって、オンラインなら参加してみ
ようかなという話もありました。いろいろな意味でプラスに考えられる
ことがあるのではないかと考えています。

これからの教育で、ICTの活用というのはなくてはならないものだと思います。小学校は今年から学習指導要領も新しくなりましたが、その内容とも重なる部分もあります。例えば学びを個別化するということが、自分に合ったペースで学ぶということがこれから可能になってくると思うと、今後が楽しみです。

学び合いや、意見を共有するということが、なかなか難しい面もあり、リアルで対面した方がいいという場面もあるかもしれないのですが。例えば対面した上で話ですけれども、今一番学校において大事にしたいことはタブレットに自分の考えを形成すること、自分の考えを必ず書くことです。今までだったら45分間静かにしていたら授業が終わってしまうというお子さんもいたと思いますが、必ず自分の意思や考えをどこかで表明することができる。思考ツールが今流行っていますけど、このタブレットを使えば、自分の意見を表明できる。それを共有するということが、比較したり関係付けたりしながら考えを深めて行くことができる。そういったふうにどんどん使えるのではないかと思います。また、タブレットを使うことで教員の指導力もアップしていくのではないかと思います。今言われている主体的・対話的で深い学びに役立つ、学習に必要なものだと思いますので、ぜひ、1人1台のタブレットをどんどん活用してほしいと思いました。

また、タブレットなどを活用すると、子供たち主体で、子供たちが問題解決していくような授業にも使えますし、持ち運びも便利だと思うので、体験で様々な場所に出かけた時に活用することもできると思うので、いろいろ柔軟な活用を考えていきたいです。

私が読んだ本で、4月ごろから活用していたようですが、そこではセキュリティの問題をゆるくしたみたいです。本当に大丈夫なのかと思いつつ読んでみましたが、これからの課題として、例えばセキュリティの問題ですが、余り厳しくすると、使えなくなってしまうし、また、故障したりとか、いろいろな機械の不具合とか、そういったときの扱いなどの問題も出てくるのかなと思っています。

それから先ほどのお話の中で、Teamsでできるということですが双方向のオンライン授業を早くできるようにしてほしいと思いました。実は私も授業でTeamsを使っているんですけど、最初使えるかなと思ったんですけど、何とかできるもので、ぜひ先生方にも意欲的に使ってもらって、効果を上げてほしいと思います。冬には、どうなっていくか分からないコロナの状況の中で、ぜひ双方向のオンライン授業についてもぜひいろいろ使って成果を上げてほしいと思っています。

台東区では、ICT支援員を早くから導入していただいたのですが、すごく効果的で、授業中に、何かトラブルがあった時にはこういうふうな使い方もあると教えてもらえる、放課後に研修もできましたので、すばらしいと思っています。かなり条件がそろってきたので、さらに成果を上げられるよう期待しております。

本当にありがとうございました。

○前田総務課長 神田委員、ありがとうございました。

続いて、末廣委員、いかがでしょうか。

○末廣委員

今見させていただきましたけれども、このコロナ禍というのは、太平洋戦争時の本来の教育ができず学生とか生徒が非常に気の毒だったあの頃以来の状況だと思うんですね。そういう中で、いろいろなことが分かってきましたけれども、一番明らかになったのは、世界の中で日本がいかにかデジタル化が遅れているかということですよね。それがはっきりしたわけですが、逆にそのデジタル化を進めよう、推進していこうという動きが急激に、教育界をはじめ社会全体に加速されてきたという点ではプラス面があったのではないかと思います。特に台東区ではICT教育を前倒しでやろうということで、それが推進されているというのが非常に心強いと思います。そういうプラス面がありますので、それに基づいて教育もこれを進めていくということが必要だと思います。今の子どもたちはやはり視覚で教育を受けるというのは、非常に有効だと思います。先ほど静電気の動画がありましたけれども、ああいうのは本当に見ればすぐ分かるという、そういう良いところがたくさんあります。今まで言葉で説明されたのが、見てすぐ分かる、そういうのがこれからもどんどん進むのではないかと思います。

それと、垣内先生からお話がありましたけど、ハード面ですよね。このいわゆるタブレットとかいろいろと整備していく、そういう中で一番大事なものは、公教育において公平感を失うようなやり方はまずいかと思います。全員が同じ恩恵を被るという形で、当然それも最初から考えていらっしゃると思うんですが、公平にみんな家庭に帰っても同じようにICT教育の恩恵を被ることができるような政策を台東区として行い、ハード面において、できればより予算をかけて、充実させていただきたいというふうに思います。

現在指導要領に沿った教育がなされており、コンピューターをこれから十分に使いこなしていく子供たちを教育していくということだと思いますが、コンピューターのいろいろと悪いところが既に出てきております。SNS等で、自分が傷つかないところで他人への中傷を行うなど、そういうことがより鮮明になってきている。そういう事も含めて、まずいものはどういうことがあるのかという事をやはり我々は考えていかなきゃいけないと思います。

そして、YouTubeなどはそのいわゆる教育系とか学習系の番組がいっぱいあるんですね。ちょっと私も見ていましたけど、子供たちがそういうツールを利用しており、人気があるようです。そういうのを子供たちはどんどん取り入れていますから、大人がそれに遅れないように、基本的なデジタル教育の良いところと、それからまずいところ両方を検討して、いかに子供たちに良いものを与えるかということが必要だと思います。そのためには学校の先生方がより研修を重ねて、子供たちの上を行って頑張っていたいただきたいというふうに思います。

ICT教育に関してはコロナの影響で逆に進んだということで、その良いところをそのまま、より加速させて教育を進められれば良いというふうに思います。

○前田総務課長 末廣委員、ありがとうございました。

それでは、矢下教育長、よろしくお願いいたします。

○矢下教育長 教育委員の先生方から、今本当にたくさんご意見をいただいているので、私のほうからは、学校でこれらの機器が導入され、1人1台端末体制がスタートした後で、教育委員会は何をすべきかという話を3つさせていただきます。

1つは、端末は今まで以上に大事な道具であるので、どの教員もどの関係者も基本的な事は使いこなせなくてはならないと思っています。端末を使いこなせることは、子供たちが使っていくことに直結するので、指導する側、あるいはサポートする側が使えないでいるのは、まずいだろうと思います。使えるようにするためには、今もやっていることではありますが、研修をしたり、それからICT支援員の話もありますけれども、そういった部分を充実して、全員で使って子どもたちにその体制を伸ばしていくような形をまずはきちりやっていきたいなと思っています。

それから使い方に関してですが、タブレットにはいろいろ機能があり、私なんかも想像がつかないような使い方があるみたいです。したがって、セキュリティの問題は大事にしておくてはいけないかもしれませんが、教師・子どもたちを含め、使い方は学校が独自に使っても良いものについては、それをアーカイブにしたり記録をしたり研究発表に使用したりすれば良いと思っています。この辺は余り制限をかけずに、どんどん使ってもらえるというような形にしていきたいと思っています。

そして、働き方改革と同じですけれども、タブレットを使いこなしていくことによって先生の雑務の部分を減らして、人と人とのふれあいや、指導していくための時間を増やしていただきたいと思っています。ICTはゴールではないので、これを使って子供たちが将来生きていくための力を獲得してもらいたいと思いますし、そのためにはやはり各学校でも教員の力が大きいと思いますので、そこに注力していただけるような体制を組んでいきたいと考えております。今後一つ一つ課題も出てくるでしょうし、また良い事例も出てくるでしょうから、できるだけそれを早く判断をして、ほかの学校につなげるような事を繰り返していきたいと思っています。

最後に、他の委員からもコロナによりICT教育が加速したという話がありましたが、昨年の12月の区議会でICTをどうするのかという質問の際、3人に1人の割合でまずは整備するというお答えをしました。その後コロナの話があって、区長からもICTの重要性について言われまして、今回前倒しで1人1台体制ができるようになりました。これは本当にスタート地点だと思いますが、子どもたちにその良さが伝わって、生きる力を伝えてもらえるように、もう一回地道な部分を学校の支えとして、教育委員会として頑張っていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

○前田総務課長 矢下教育長、ありがとうございました。

それでは、服部区長、よろしくお願いいたします。

○服部区長 貴重なご意見を本当にありがとうございました。こうしたICT教育環境の整備というのは、これはもう大分前から言われていたことですが、その他のGIGAスクール構想

ですとかそういったものが言われてきた中で、今回コロナという状況に遭遇をしました。しかしコロナに遭遇をする以前から、教育委員会として早くICT教育を推進し、1人1台端末環境の整備をしようということで取り組ませていただいたことが、結果的にはコロナ禍においてある程度有効に使われてきたというふうに思います。このICT教育については、先ほどの先生方からのご指摘のとおり、今回コロナの影響もあり今後もプラスに考えて推進をしていくという必要があると思います。

30年度からスタートして、現在モデル校が3校ありますが、取り組んできた実績や課題は、よく検証をする必要もあるだろうと思います。これはよりよく進める上での検証ということで、どうすれば改善ができていくのかという事も含めながらやっていくということだと思います。

一つ、先ほど垣内先生が3点目で言われた、人とのつながりが人間生活の根元であるということについて、その辺は非常に私の中においても響きました。今回のコロナ禍でデジタル教育とかそういったものが家庭でも活用されていますが、本来的には先生と生徒・児童とのふれあい、交流、それによる絆とか、もちろんICT教育をすることによっても十分できると思います。教育というのは、私は心の部分だと思っています。子どもたちや先生、あるいは地域社会、そういった方々とのお互いの信頼関係構築が教育の中心の一つであると思っていますので、このICT教育をしながら、そのことも併せて進めていただきたいと思っています。

○前田総務課長 区長、ありがとうございました。

そのほか、ご意見等ございますでしょうか。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(なし)

○前田総務課長 本日は、数々の貴重なご意見を頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。

これをもちまして、令和2年度第1回台東区総合教育会議を閉会とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

午後 16時29分 閉会